尾張名所圖會 後編 一

第四門
第三八號
藏書印
領收番號
調製年月日
品目
備付物所 教學課
請書番號
文第一四六號

温故知新

尾張名所圖會後編

岡田啓
野口道直 遺稿
小田切春江 圖畫
朱補綴

明治十三年九月出版

愛知縣藏版

愛知県有物品

庚辰二月
改茅新

屋張名所圖會後編序

西史ニ為體大者必記小者或漏其所漏之須事而猶有可以見風俗人心ニ微醜為者是乃稗官小說之所以為不可廢也耶屋有省切春江來賜

以展張名所圖繪後孫曰雖
殫心毋顧見玩而其模題
勞子以爲有取乎則請爲
一言披而閱之則勝區名蹟
洪纖悉舉古風舊俗之情
世歷然手圖記紙上矣況猶

地誌者徵諸記載及傳聞者
爲多而親歷其地驗其實
者無幾故記風俗敘事蹟
或誤或漏今此編則足
踏其地目擊其物備詮諸記
光及舊籍而謂參覈之而

圖成熟究之而書具者或之
以補地志之闕抑又思之
治化之要本之於民情之微
醜之所到未嘗有不根其
俗之由來蓋記録國風之
於古風謠俗其所觀感寡

深故爲治者有以資焉然則
此編既可以備史家採摭又
可以借治者參考豈趣謂
之非見玩物哉乃揭其所以
著述世者書之於首簡

明治庚辰二月

國風廣中撰

菊原眉山書

序

[illegible]

有大木石于路當人挽送之一人唱形許兼應而和唱乎特之如易象貫挽者衆之力也使挽者一人之象如路蔀之化國風詩之功也於我鄉乎特之執牛耳而斡理宰

創之未必盡生體制精美如斯然則法之一技倘亦為小而精之一功夫乎或嗤嗤之曰如法子則吾不知精一而為世區區之舉何余曰吁生孤禁名而圖繪者大抵為國家之事乃先古哲人玉汎遠意也因

陰之為物而名區陳讀雍事莫深因記和漢人物生實然於生使人觀因之光光為捷徑生且精一孤子居深苦之地不敢拙而謀獨創名法不競之業而為昇平小補墓先精一將亡之事乎耳生之識邪之法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

岡島如道

尾張名所圖會後編卷之一

目錄

中島郡上

中島郡解
末社
馬の頭の図
神宮寺
常念寺
濱神明社
綿曳轆轤
新神戸村
彼岸縄手地藏
足利義教公詠哥の圖
野府古城
一宮村
神宝の図
桃花會の図
社僧福壽院
火除櫻
閔氏城跡
神戸村
野宮神明社
武藤氏宅址
御蒙天神社
真清田神社
社領
神主
地藏寺
御旗竿
牛野
潤見神社
富士塚
神明社
西方寺
義教公詠哥の松
阿佛尼奏詣の図
例祭
別宮
市立の図
天道社
孝子孝女
神戸氏宅址
三明神社
了泉寺
正念寺
金剛寺

淺井田宮丸城跡
孝貞女三輪の傳
妙興寺
破塚
陸田御厨
下津里
正明寺
草部御厨
千町田面
國照寺
宮ノ地花池村
同靈宝弘通の図
川曲神社
赤池里
佛德雷を避ノ圖
四ッ屋
長東正家宅址
瓦堂廢跡
毛受村猿戔
大神神社
万里和尚の古事
大神社
三本木池
織田敏虞城址
淺野長勝屋敷跡
飯尾氏城跡
坂安賀恵図
蓮花池跡
小栗海道
拜師舊郷
万德寺
加藤光泰舊宅
六角堂長光寺
安樂寺

林秀易

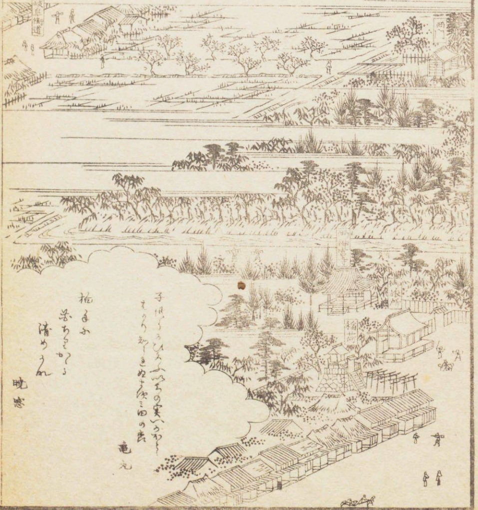
真清田神社

勅額掲門高接空喬松老檜欝蒼々
神壇壮麗人休怪此是張州第一宮
賀田秀蘂

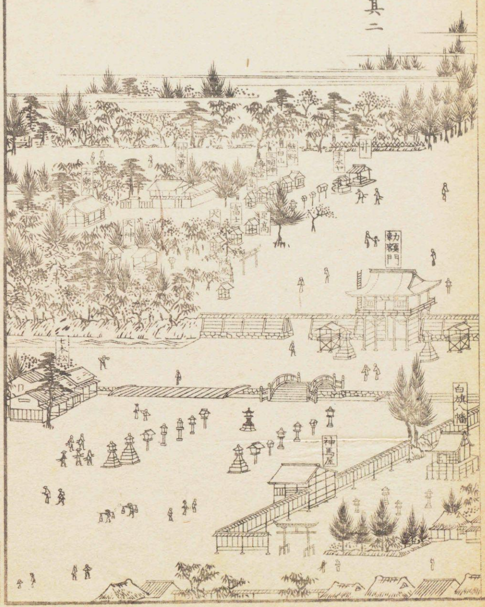
鈴木朗

神代より云傳ふ良久
久堅の天はな神ハ
天地の開けしより
御據の御ふ中の
草なきの寶出るめ
成まして國常立の
皇神と御名を称
て尚其の尾張の宮は
宮柱ふとしきたてく
常陸にあらめ次田
乃ゑらけれい豊秋は
洲に始まりき一の
宮居と仰て神の宮人
絶ずかく宇豆の幣帛
たてまつる瑞籬に
八少女ら舞さし入鈴の
音も清て神楽ゆる
柾の由かけての
大君の大御代を万代
とけてまかりまつらむ
名も高き熱田の里の
宮はげりしくさて
かきつらぬまつ尾の
神

秀蔭



其二

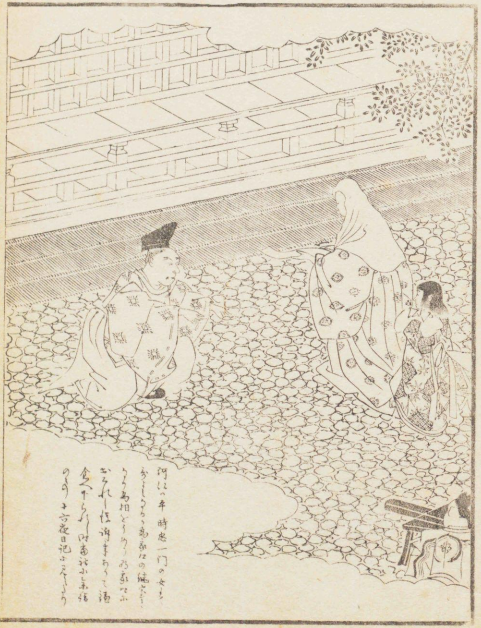


帝國圖書館藏

當郡

の西戌の方にわたりて國史などにも和名抄延喜式等の書にもふるれ中島とかけり東は丹羽春日井の二郡の隣と南は海東海西の西郡に接し西は木曽川を限り北は葉栗郡と堺る次郡中に多く田圃のみの地なり尾張風土記残缺に中島郡民用富貴也材用不少出脩竹紫胡大根胡麻等云々し

ひは墨俣川尾張美濃の國界なり天平三年 聖武天皇 の国司 藤原宇合 の時に天平三年 聖武天皇 の国司 藤原宇合 の時に天平三年 聖武天皇 の国司 藤原宇合 の時に



阿佛尼一宮ふ詣て
和歌と奉る図

多くハなりしかハ往昔御鎮坐のそゝめより莊嚴なる宮殿大小の神祠常磐堅磐ふ弥榮え神門多庫にいるまて老杉古松の中に巍然として立せる人故ふ延喜式ふも名神大社の列ふえ〳〵ゝと当國の大社五ヶ所のうち第一の宮なる事分明ふして神德のゆゝ仰ぐふも猶あまりいろ

日本後紀云 弘仁十四年十一月癸酉奉授尾張國无位真清田天神従五位下 文德實録云 仁壽元年十一月辛巳部以尾張國真清田神列於官社 同三年五月辛卯尾張國従五位上真清田神授従四位下 三代實録云 貞觀七年七月廿六日乙巳授尾張國従四位上真清田神正四位上

実事

妙の器の移りましの宮の図をつくりまうけ奉りて神ふ献ずる事

赤源廻門

今書すに真墨田とまぶしきまりのふ武藏の隅田川とまぶしの川を多ふ用ふ

一の鳥居 楼門

いらはしわ名をへ〳〵ふ四方ふ多くいろ〳〵ふ

阿佛

本社 祭神ハト部蓋墨の大日本國一宮記ふ真墨田神社ハ真清田大明神是也大己貴命尾張國中島郡ふ坐ス 天照大神月讀尊大己貴命八龍神を

命ゼ奉りしかハ神祇宗廟常在尊也當社祭二神所謂天神七座地神五座也 真清田清國ハ採桃集ふ尊神鎮座之時東ハ鹿大菟と

の御宇弘法大師ふ命ぜ給ふ 真清田宮森本中ハ廣ふ移て

境内末社 熊野社 白山社 愛宕社 三明神社 嚴島社 愛鷹社 淺間社

富士社 天神社 八百萬神社 其小本社の南面倒ふ坐ス 子守社 佳吉社 新嚴島社

新愛宕社 共に本社の東ふ坐ス 白旗八幡社 楊門の外の西ふ坐ス 伊勢宮源義朝日隆寺

勝利を得られしハ此社の明清ハ 御鎮殿齋館 透垣西門神馬

殿御旅所 一之鳥居 楼門 南向ふ坐ス 番古十棟に 聖武天皇宸筆 ふ 物鎮門ふ入

外末社殿宇四境の神門多庫多くいろ〳〵廣〳〵ふ

禄の比の古國に備りいろと見ゆ

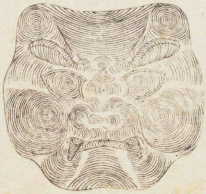
御鎮座松 古樹枯槁して世之櫻 其も今ハ枯傷ふ 世之櫻 ハ 其 ハ

今和歌を添ふ奉納ふ年経て下の白也ふ 其ハ年 平 ハ 天ハ神の宮庫ふ 其ハ

聖武天皇宸翰古額

神寶

眞清田大神



木目の眼面

一本どりつて彫造しゝ奈良朝の鬼形の面相とゝもう題一寺出しゝ

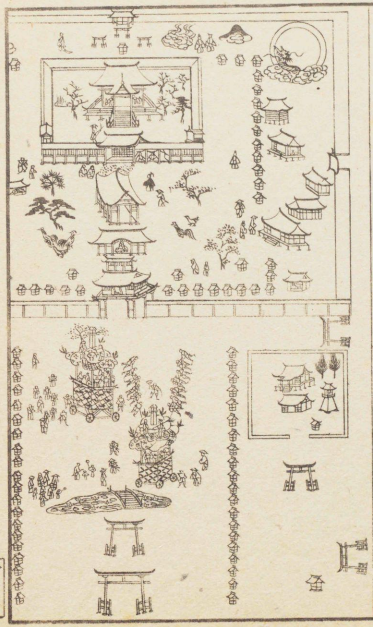
陵王

貴德

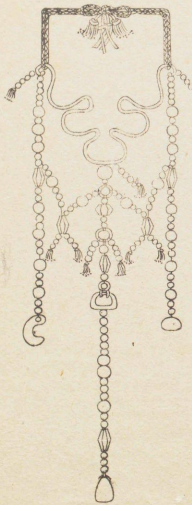
童舞

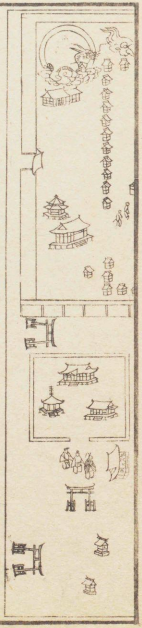
散手

一ノ宮古圖



五百箇御統





て、ものしるしあらんかの上ろくの代代と給てものの子ども、と神ものしるしまもりあらんかの
爲まもりまもりて、世世の中、鎮四方にわかぬ、使一位重綱ぬ、　延暦年三本
杉　二本八束　弘仁年七本　松　六本　柏　不分　二股竹　建肉の
神寶　五百箇御繩　和琴　古鈴　鈴に付き一尺二寸廻り鈴の　獅子頭　銘文
鐵鳥居　本社の両陣にあり高八尺ゆ甚しくたおれて　御輦　懸四合
古雅なり藤原和光等奉納ゆ　銅鑑　天正二年甲戌八月　神鏡數十面　裏の紋鶴亀
元年の銘あり　十八日の銘あり　松竹梅の等
ゆ、くして享徳二年　文明　太刀　二尺八寸三種　短刀數口　来國俊　来國光　来國次
十二年　の銘あり　正宗等の作　鎬に奉納八幡大菩薩御宝殿水止七年　庚午三
付ふ　二尺七寸　鉞　甘前一手　月三日信心大施主左金七郎左衛門尉元寺　
高刀　無銘作　神の奉納の宝器より甚だ古雅　出他所義　元亨年　歳次辛未青陽天調進之　貴永年中に
假面二十三種　面の空器　やしろ　行事の祝　日日の　人等に　
國祖君の面　人　
古縁起二卷　正徳の筆　
燈臺銘　集古十編出
足利義植公花押
社領　御朱印三百三十三石六斗餘　
神君國君の御制札數多あり
の制札　
神君國君の御制札數多あり

例祭　御鏡餅御饌調進　正月　元日　白馬神事　同七日供御調進神馬と
調進　同十九日　祈年祭　同晦日　毎月三度　毎日供御の雜膳と　小豆粥
祈年祭宴　三月朝日　桃花會　同三日　供御調進　三月朝日
供御調進　毎月　毎日　毎日　毎日

いなせ者
ひさむや
一龍斎
豊国堂

一之宮
馬之頭
うらゝや
馬の嘶く
泉は中
甚洲

桃花會

結構行宮十二間神輿陣自五宮端午飲酒過程明
桃園國人民拜工變斜驚
魂指棋點轉
刹修春祭為
聲聞為亀斷
有
彩玉時竹看
復文時書觀
森玉有

夢かよ
いつ〻ゝとりは
隠風も
峰ゝとくたゝ
さ花さ笠の音
世丸

桃雨櫻東花
又花馬車ゑ
終夜紅蓮渦
御鉄笛人扶
酔戸ゝ春風
目影針
服部敏山

きらゝ針の
ゝゝやハふ
ゝゝほろ
ゝゝゝとまの
ゝゝゝ
ゝゝ

林秀樹

ふゝゝハ
ゝゝ一の
ゝけ
れ

原竹

之ゐ奉の美ゝ絶て神のまゆ綱まゐ田ゐまゐ抱の祝令　従一位前右大臣

かゆふさゝゝ波数ゝも多くて世祝のやゝしのまゝの神等　藤谷為倩卿

抱ひろゝゝかゝゝの美ハ三ゐ也も神のゐゆきにつゝまゐ　外山光城卿

もゝゝゝゝゐゐゐゐゐゐ神すをひゝゝの宮ゐ巡られ行る　山本正邦

神ゐゝの井ゐも一のゐゆゝゝゐゐ巡ゐゐゐゐゐれもの美春　中尾義雅

八十八夜祭　三月四月の頃　端午祭　五月五日　鎮斎周進　六月晦日　神宴　六月晦日神宴　七夕祭　七月七日　御禊　大宮内

彩り神　神の御　大祓　神の御　神の御　神の御

神掃除　同月　神宝虫拂　同月　重陽祭　九月九日　神酒　新嘗　駒牽　大宮内

二十五日　神宴　十月晦日　上月三日　新嘗宴

新嘗祭　十月晦日　大宮内　御神樂　同月　臨時舞樂　遷宮の時　東照宮の時　東照宮の時　東照

一宮月並市

高野の番附
三八の日市立ち
ものもとの面
人等は其り給ひ
とて、久後の為
なれば雑板
おくりし所
ず是あるとて
彩〜数万人の
ひしめきる使者
申肆記の人つ
路を指の輪ぐ
ゆーやーそもよ
ゆ〜

日本
西方
彌陀尊靈像四大體内
笠三番 常念寺

一宮一鳥居
地藏寺

別宮　大神神社　花祇天王社　濱神明社　社の東に流れる昔は此辺大きく流れ潮満ち引く
大樽　神戸神明社　子守社　神主家及び村方中の　大國霊社　御供田社　更
屋敷社　齋宮社　貴船社　三ツ石社　熊野社　山子社　淺間社　牛野社
東小島社　西小島社　印田社　白山社　四峯社　両郷寺社　郷内の道　松尾
社　八王子社　八百萬社　天王社　昔小田村の田所しかり
宝部山竜花院地蔵寺　田村小字　真吉宗　山城国醍醐報恩院末
薩の開基にして魏しかも古刹にして中古火災ありて荒
廃しかりと弘長年中空圓法師　無住国師道跡考ふる所の字を一四
廃しかりと弘長年中空圓法師　無住国師道跡考ふる所の字を一四
上人も世俗姓氏なり相州の人にして其上足空四上人（俗門の郷なり）本州一宮地蔵寺の
開山にして同氏族なり三人同氏族なりて相共に修行の為に三人時に相会し清談
しつつ世人多く尾州の三四　再建を寛永のころ又火災ありて伝良照
法印隆奥ヒ　寺傳ハ以り　○本尊　地蔵菩薩の像
福　毒院　真言宗高村地蔵寺末　文永年中空圓法師の開基にして　行基の作なり
本寺八十一面観音の像と安置仏むこと十坊分ありしが　延賀崎山瞰福寺しかり
東廻りして以一宇のこり残りし天宝涅槃像兜典司の筆　弘法大師像自画文殊菩薩金剛華
大隊推古天の縁寄り　康富記云嘉吉三年九月廿日丁丑晴東岩城之寮花院坊主等月

上人庭等日居等今日今下向尾張国　宮給来廿四日建福寺供養也為導師
等月上人被請招五五彼寺供養之表白兼　風記事依所望富草道之ゑ
柳　星山常念寺　同村小字浄土宗西山派　後小松帝の明徳元庚午年の
草創開山空選名運上人なり空選和尚真清田大神小詣で
一百日通夜して浄土の教を弘通せんと祈願なりける
小百日満ぜし夜明神告たまく汝仏法鳥陀の志あるて我小其
地を示さん　縁勝なり則見よ高山に南にて其地なり行て弘教
すべし　告ぐる時小天より星三粒なりて空選の口に入る　東北に
なりて空選感喜の涙頻りして東北の方へ尋ね小島地に到
柳の夫本小三尊の弥陀　新開にたる山見明神の示したまふ所なり
堂塔を建立本尊を安置　灸の灵験とりつく　柳星山
なりて星霜を経て弘長年中今代地なりつる　西方四十八願所　香
専門寺西方四十八願　本堂　本尊阿弥陀如来像　観音堂　傍教大師作なりて弘法大師
所縁起なり　服部主殿助　を安置仏天利　を安置仏天利
撞楼　近くに王徳年中の鐘なり　寺宝　大永三年　巻己八月書写の古経　国祖男御筆の二字
　　大永三年　巻己八月書写の古経　国祖男御筆の二字

常念寺
福壽院
遊一宮常念寺　僧關空
號紫金城過下津道每浄境此
来疎門通晴野開吟目寺擁幽
筐隔俗塵星霜纔石山已古佛
尊留像苔蘚新塘敷幸得緩遷
仰作禮勝數植勝因

御旗竿藪
御殿跡
いつ者ハそこと
かすゑ花ぞ哀世の
こゝきこうみを
長くあふ名ー
佐命清因
宮門
福壽院

天道社
瀧神明

天道社
日待の圖
天は
日の丸

見むとて一あらに遍と数多ゆかりの[illegible]

国君の[illegible]

ふして国君へ拝謁と免さるる四海文地と称する又嵯峨御所より往生要集

十幅寄附ありて吳宜の地一とせり

火除櫻 同村金剛山真光寺の境内にあり天文年中由る猛火の門前を焼燬の節此樹大と焼ずして[illegible]

天道社 同村にあり往古摂州の社なりと事伝年中西海郡稲本名家村社祭祀の天道寺と称し[illegible]

塔頭 四面院 宝甲庵 当寺八宗門の准擬林

関氏城跡 同村にあり東西二十間南北二十間四方に[illegible]

牛野 同村の北西にあり[illegible]

孝子孝女 同村の林[illegible]

名産綿曳 同村にて[illegible]

神戸村 一宮の北にあり[illegible]

酒見神社 本神戸村にあり今神明社

從一位酒見名神とあり大社なり神鳳抄に尾張國本神戸内宮御神酒三番なり皇宇沙汰文に尾張國酒見御厨とあり[illegible]伊勢の神宮へ神酒と奉る御厨の地なるべし社歌に酒見酒弥豆の器浩て外宮の酒殿ふまし[illegible]賀乃咩命と勅請して祀り社なり境内ふじりの酒甕のうてひ古記もに[illegible]

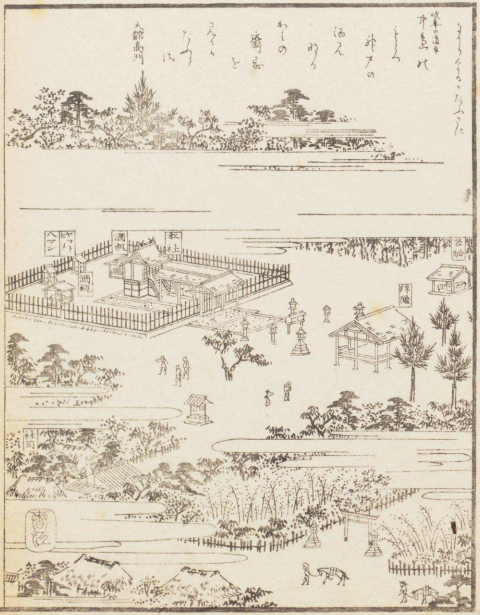
延喜神名式 酒見神社と云ふ本國帳に[illegible]

酒見神社 本神戸村にあり今神明社

[illegible]

[illegible]

[illegible]



酒見神社

う〻分〻〇末社 後姫命社 八幡社 山王社 秋葉社 例祭 八月十六日馬頭角力とり〻あり 祠官 伊藤氏

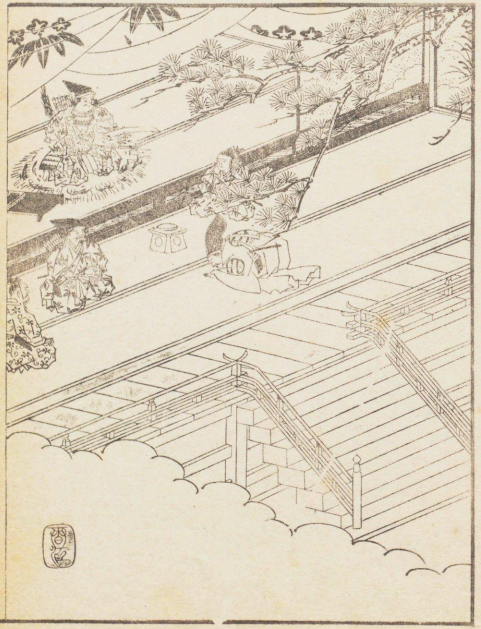
神戸氏宅地 同村の人なり 今其居地をうつし俗称川親元記に寛正六年二月前日武摩御被官尾州神戸彦正衰則坪内将監廣綱名曽一足進上之永正八月九日尾州神戸七郎御見参太日代金五百足所被ゝ〻〻〻

新神戸村 本神戸馬場名の西にあり 里人云天文年中平姉門退討御祈願ありし 桜葉に伊勢大神宮へ尾張国のうち三郡の神戸を寄附ありしかば 神戸の名ありしに新神戸と名付ありしなり 魯也云〻

扶桑略記云天慶三年庚子八月廿七日尾張三河遠江三箇国封戸各十烟有勅奉寄伊勢太神宮是乱逆間為逐賽也 太神宮諸雜支記云天慶四年三月廿八日依官省符尾張参川遠江等郡神封戸各拾烟被奉寄於太神宮已了 今号新神戸依戸是也

将門追討之御祈禱也以上の二書に〻年月が〻〻たがひ〻〻人神鳳抄に二宮新神戸田八十町一反畠七町三百歩〻〻〻神宮雜例集に尾張国六本神戸 新神戸十 新加神戸十とあるもこれの事〻〻

野宮神明社 同村の神戸村にあり 伊勢の御封戸の地なる故 斎宮寮の官人なり 此社の本末あり 是は伊勢の神の宮と為すべし 一説に 一巨樹 枝葉繁りて三丈ばかりなり 国士接記の社なり〻〻〻



義教公
鵜飼頼勝が別業に
詠歌の圖

考へ[illegible]郡村も此のあり[illegible]迄の[illegible]村[illegible]の[illegible]

[illegible]

西方寺　同村にあり[illegible]

南寺も郡部七門後のうちにて親雪寺人の門徒[illegible]の開基[illegible]文明年中徒[illegible]中興すり寺室に蓮如上人真筆の名号一幅[illegible]天文五年火災小焼失[illegible]

[illegible]

御袋天神社　板倉村にあり本国帳小徒三移御袋天神と[illegible]

[illegible]

義教公詠哥松　[illegible]

[illegible]

光明山金剛寺　同村にあり[illegible]

[illegible]

淺井田宮九城跡　[illegible]

[illegible]

鷲洞山國照寺　同村小字[illegible]

[illegible]

[illegible]

敷野ニ問ヒ養白集
孫ヶ丘の鳥
ろくり
竹孔
士朗

元受村ろうあの鳥巴
名古屋三見代汗屋
うなぎ友右のうとやのうり
猪を見ー京業ー伝ちう
人世の淺ましさのとり
風流の鳴業ケり
工度
一ノ廿二

賢林寺勧進僧公明天福二年甲午二月十五日と見えたり　南村七郎兵衛　山内荘寺

光茂が道場寺成菩山は隆寺号四系の寺院為にて十月十日の歳起

小川郷小島郷多清多人見見あり小郷一もて為始の見えたり

孝貞文三輪の傳

因幡の国高草郡に孝貞文三輪の門世帯の幼年より文孝

三輪は七歳の時に父を亡ひ母と五歳の門世帯幼年より文孝

有りて家の為に孝行をつくし一日も子孝

為家に入り又上つて孝行おこたらず母の為に

怪しきなり夫につかへること易頃

けるに三輪の孝貞世にくれて行ひ

青河若手に賜りの其日三の時はに

年以文化三年五月八十

五歳にて病死せり

官地花池村

和名抄に中島郡美和郷と有り号

大三輪の神のおハ[illegible]

大神神社

因幡の国に有り今は

明神と称す

延喜式内にて本國帳に従一位大神名神と云

祭神大美和都祢命

天火明命の十世の孫にして大和の三輪と別神

蓮花池跡

因幡の国に有り今は

[illegible]

一八九四

と後の国花[illegible]

長島山妙興報恩禪寺

[illegible]

当寺は貞和四年より草創し

貞治四年建立盛終し　後光厳帝勅願の道場にして久我内

大臣右大将通相公寺境三十三町六段二百八十歩と寄附しぬる

圓光大照禪師宗興滅宗和尚の建立にて　師年四十二歳の時考妣覺阿勝

観乳嘗御密の恩に報ひ[illegible]

創建すること[illegible]　大應国師と開創の始祖とす[illegible]

[illegible]

[illegible]

近世寺こそ
通りあけたる
即年ゑ水槽
如翠

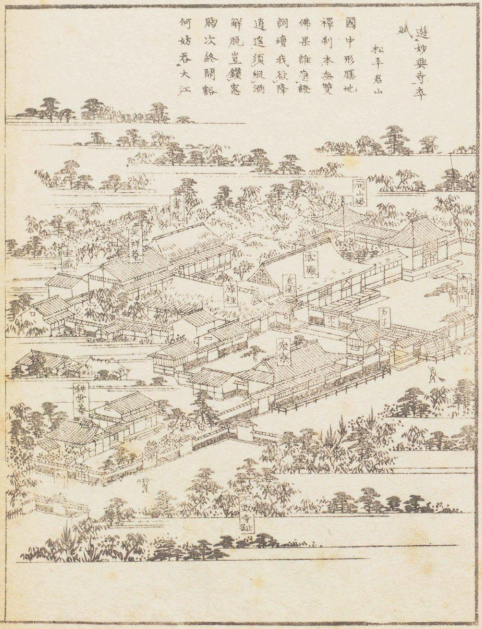
近江安賀全圖
水茶屋
とわらー里や
茶まれ花
静愛
一ノ共五

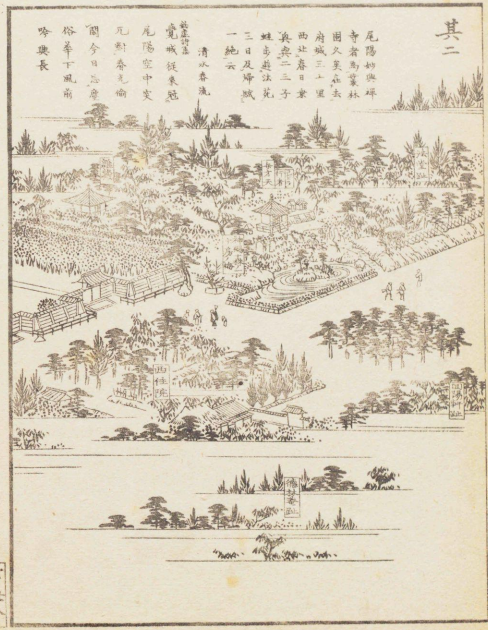
夫より陽舎に在しゞ年数積り学業うて後本山に帰り四十二歳
にして貞和四年当寺を創建し其外所々に八宇の梵刹を建立し
又近江尾張越前の三ヶ国に接待院を開きて雲水の僧を養ひ
武時熱田に来り給ひし神社の荒廃してをかるゝを陸奥と加賀と越後と
廻覆ひ給ひけるに社家収びて熱田の社領のうち中島郡鈴置郷（今の知多村）
とゆ寺に寄附あり其時の大宮司の建武今に寺宝し侯
又大神の託宣と称して大宮司常端より梅樹十株と為ちに
給ふ境内に植ゑ一宇の坊を建て十梅院と号く（今の開山堂と云）
これ
うゆて星霜を経るまに其梅多く枯槁して今ようの一二株の
こと也 希代の古梅なり又むかし弘法大師熱田社を修復なし時
社人に示し給ひ七百年の後宗教衰廃し仏法滅亡し其名と
共に其ハ弘なり則我再来なりと云ひ寺記に之なり又
一宮村比殿にむかし親鸞と云僧あり之を聖人四ッ法師と

常に宗祖弘法大師と崇い給ふ武時解脱観念し居るに忽ち
神を一人来りて告るハ汝ちゝ今ようの大師なり之を法師
も拝ゝ礼ゝ云親鸞走り出て見ハ大照禅師なり親鸞わ
やゝして大師に向ひ給ふ云ゝ神童禅師と申て見ゝ学人
親鸞ハ是大師の御妙真ちの感宗なり神童又答て其
と弘くあゝ二ッのむやゝ云給ひて消せり地蔵寺の伝記
ゆも之りまれも興ハ禅師の実名宗興と云弘ハ大師の遠
号弘法と云ゆ其ハ大師存生の日熱田の社人に其ハ弘なり
いゝしゝなるまゝ知ゝ聖人あちの伝法ふりて来る侯のみ
和尚寺院興隆の切ハ元来ゝ京師雖波有馬に住び又九州筑
前等に周歴して名誉と称ゝ永徳二年壬戌七月十日年七十
三にて示寂 圓光大照禅師と謚と 奏ゝ徳二年無徳恭吉和尚著す所の田光大照禅師行状又本朝高僧伝近世僧侶伝
扶桑禅林僧宝伝等に見へたり 当寺ハ世に勝れたる浄域にて代々の綸旨院

妙興寺
蓬島拾珠
尾之州妙興文室
會稽狩野慶甫
正月廿七日
高野居士
梅香不成風
豊景唐卿阿
海東春雲梅
出碧羅宮滴
身餘習鶯應
寫十梅花前
九洛中

中秋 尾州妙興寺作
南化西野
三五秋深鶴閉門白頭吟盡
玉黄金果実飛梯一輪月故
問平安天不言
山つゝ
花し
少残や
秋の景
也章


遊妙興寺本
松平君山
國中形勝地
禪刹本無雙
佛界誰忘縁
飼禽我欲降
道途須根測
解脫豈鑽窓
勝次終開豁
何妨看大江


其二
尾陽妙興寺
寺者馬寶林
開久美花去
府城三十里
西北暮日東
眞奥二子
蛙鳥趣法筵
三日及禪城
一純云
清风春流
尾陽空中交
尾對春光徹
閑今日忘摩
俗華下風前
吟興長

宣御教書御朱印御黒印諸流文等今に数通とち侍ら
ん文和二癸巳年将軍足利尊氏公　勅を奉りて国中無
双禅剣の額と賜い永享四年　壬子年足利義教公富士御
覧の序当寺へ帰駕と云ふ半日滞在ありて妙興報恩
禅寺の台華と称し也旧寺領の後一安堵の御教書と
なりしかれば大檀那と称し公の肖像を画き京都鹿苑寺瑞溪
和尚の筆を加へて今ふ所蔵と侍ら〜なり　又日本名勝図
ふも尾州第一勝蓋妙興報恩禅寺と志侍り　續羣書類従ふ
妙興報恩寺記とのたて世にかくれなく　夏ふ国中無双の禅剣なり

○佛殿　南面して覚皇宝殿しも一殿理ふ共額とあり　本尊釈迦如来脇士普賢
文殊と安置侍る　妙興報恩禅寺の額八普慶院義教将軍の台華なり　魚永年中の火
災ふ宝塔多く焼しかば此考のしかりなり　又又再建上棟の棟札ありて慈永
二十九年壬寅十月十五日と見えたり　お仏像ふ作田の勧進ふ作ると云ふ　他ふ
義郎と是ふ刻して九人の僧方ふ作ふ成堂内仏者の頭仏壇閻王の眼ふ作ると云ふ
勧ふ云て彩色を定ふ見えたり　開山塔　南面大直厨所大無禅師の二
縁と安置ふ又十梅院ふ考ふ

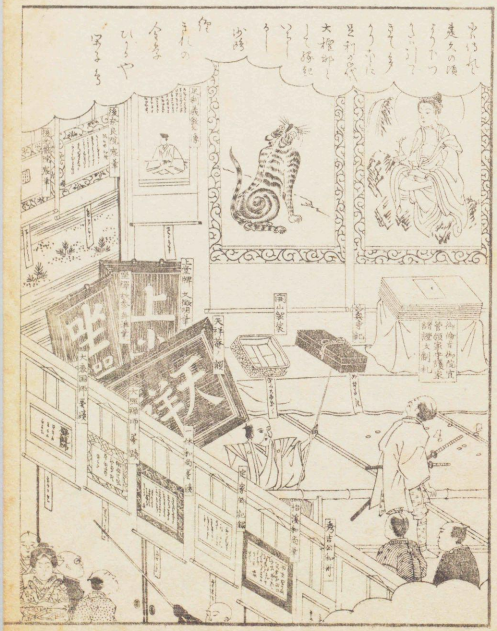
安国大寺ふ称ふ定ふ　十梅の額今ふ座ふ有ふ　鐘　名鐘の意ふ　製作ふ南ふ
姫しかりふ　鐘の意ふ　製作ふ　製作ふ　製作ふ　製作ふ　製作ふ　製作ふ
国三月廿八日小聯　客殿　十梅院の西にあり　南面して　天祥菩提寺号院明　可菴
京語謹志ふ　客殿の額一面あり　丈一尺天祥菩提寺号院　書院
むし一年隔ふ十境の中六明勝ふ　衆寮　其師ふ中明山在世の門二百僧合ふ
今の所も其名残ふ　惣門　外門ふ　中門ふ　二の門ふ　山門
寺記ふ見えたり　勅願寺　勅使門　中門ふ　二の門ふ　山門
創建ふ年月と称ふ　長島山の額をあり　山門
見え　国ふ　攻撃　建立ふ
ふ　鐘楼　玄関の東ふ有ふ　張国中島郡長島山妙興報恩禅寺大鐘鐘主
鐘　此五尺祥寺　絶奉価貴文鑄之奥永和第二丙辰大工羽黒新兵衛開
基也正宗鬼持此五尺　一ふ　因所ふ天祥菩の建ふ有ふ　天祥菩提寺号院
次年徳二稔鐘集奏国孟秋日寺塔地在施吾施ふ　国所ふ見ふ　ふ
ふ　警観音堂　寺室ふ　足利尊氏公の念持仏ふ　迎ふ頃ふ　住吉社　辨
財天社　天神社　鬼門天満宮ふ祭ふ　太宰府飛梅の小枝と　霊寶　涅槃像
室一丈八尺横一丈二尺の大幅の絵ふ　永都泉涌寺の開山俊芿国師木国ふ持来
ふ　象書小去應仁大乱富寺四録之刻此尊像殆失悪八僧御内徒一住所長谷川
道慶入道為現当二世大願春馬以通分財銭令買得　観音堂虎三幅対　典様和
春寄附者也ふ　時文明十戌年二月十五日今ふ　画幅の様ふ年　国祖尤尊買ふ　其ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　

摩居士賛 石林和尚筆 趙子昂書 張瑞圖書 人物圖 趙千里筆 墨梅 雪庵筆 山水 唐宋筆 虎堂肖像 唐画筆者不詳 人物 芭蕉松兎三幅對 明梅清筆 四天王像四幅 唐画清筆者不詳 十六羅漢像十六幅 同上 十六善神 同上 拾得圖 然可翁画妙 観音大士像 然可翁画廣 不動尊像 妙澤和尚画賛 白衣観音像 兆殿司筆 神仙圖 同上 山水 周文筆 同 雪舟筆 三聖人圖 同上 福禄寿童三幅對 雪村筆 釈迦文殊普賢三幅對 啓書記筆 蓮鷺圖二幅對 狩阿弥画 鷹圖 萬里居士画賛 竹雉子圖 足利義政公画 張果 良圖 永徳筆 義教公肖像 瑞渓和尚賛 秀吉公肖像 南化国師賛 四聖國 吹川国師画賛 夢窓國師墨跡 寧一山墨跡 大燈國師墨跡 大慈國師墨跡 大照禪師墨跡 維摩居士讃 無住国師筆 一休和尚墨跡 春溪和尚墨跡 古剣和尚墨蹟 笑隱和尚墨蹟 天隱和尚墨蹟 怡溪和尚墨跡 特芳和尚墨蹟 慶甫二字 九淵和尚筆 諸山疏 莫方和尚筆 関山行状記 無隱德吾和尚筆 尊氏公手蹟 観應三年六月十三日花押ヵ 秀吉公自詠和歌 自筆 後醍醐天皇末寺圓光寺境内安堵編 弘安二年十月八日 後光厳

帝境内安堵綸旨 文和元年十二月九日 延文四年八月七日 同寺領安堵綸旨 貞治五年四月十二日 同熱田院宣 貞治四年十二月三日 伏見帝熱田院宣 永仁六年九月一日 同上 久我内大臣通相公境内寄進状 延文四年二月四日 後宣綸旨 応永十年十月十日 同五年閏四月十日 同上 久我内大臣通相公寄進状 応永十年十月十日 同寺領小寺宮 村上天皇宸筆 親王 久我殿 後醍醐天皇 足利義詮公寺號御教書 文和三年三月廿八日 同安堵御教書 貞治三年六月廿七日 尊氏公安堵御教書 文和三年三月廿八日 同寺圓光寺境内安堵御教書 延武三年 義持公安堵御教書 応永十八年 義量公安堵御教書 応永十年 義教公安堵御教書 永享二年 義勝公安堵御教書 文安三年九月二日 義政公安堵御教書 長禄二年三月廿日 義尚公安堵御教書 長享元年 義稙公安堵御教書 永正八年十二月廿四日 高階師貞證文 延徳二年十二月廿九日 細川武藏守頼之證文 明徳二年八月七日 細川勝元證文 長禄二年四月二日 同三年四月十日 斯波左兵衛義廉

證文長禄四年　織田出雲守常竹證文　應永十五年九月二日　同伊勢守常松證文　應永十五年二月廿日　同遠勝證文　永正三年十二月朔日　斯波左兵衛督義淳制札　應永廿年九月　織田大和守制札　嘉吉三年三月日　同紀伊守廣遠制札　延徳二年九月三日　同五郎制札　文亀三年十一月日　以下略　将軍家の御教書式家方の奪一と次ぐ　寄進状　嘉暦三年十五月廿五日　散位長判　藤原清重　同年三月二日　応永十九年十月廿五日　藤原貞兼　同年三月二日　応安二年七月十日　高階泰隆　延文四年三月二日　稲田宗賢　嘉暦元年十二月十五日　佐弥宗覚　応安二年十二月十八日　佐弥宗久　同三年四月十五日　佐弥宗賢　同六年十八月廿二日　佐弥宗真　同十八年八月廿二日　宗源祥金　同十九年五月十三日　長礼　同廿三年十五月廿三日　岩瀬守清　同廿六年卯月十四日　永享元年十二月廿日　藤原久親　長禄二年四月十四日　明應元年　讓渡状　応永十二年十月十日　宗成　大永四年卯月二日　遠清　讓渡状　元應二年四月廿日　佐弥長貞　元弘二年八月九日　毛塚勢俊　嘉暦二年二月廿四日　佐弥信覚　正中三年八月廿日　家賢　暦應二年七月五日　佐弥善覚　貞和元年十二月八日　大行　應永九年十月十六日　佐弥常竹　同十六年十月十日　良親　賣渡状　弥生十九日　佐弥里　正和三年三月廿一年十二月十三日　性秀　嘉吉三年三月四日　金端　月十三日　尾張宣俊　元弘二年正月十二日　尾張資俊　元徳二年十二月廿日　藤原泰経　應永十六年十四廿三日　長明　同十八年十月三日　信德　同十九年十一月廿五日　善珠六人通　基秀　同廿五年十二月十三日　春政　同廿七年極月十九日　牛太郎　同後家　永享　沽却状　貞和元年十二月廿日　沙弥覚家　親　應元年十月八日　海巳下三人　康正元年十月十三日　宗文　貞治五年五月廿三日　泰隆　同六年九月廿六日　高階経仲　左京亮五位　明德五年十五月十日　安義巳下三人　應永二年十五月

十三日長稿　同十年二月十八日　墨濃　同十二年十月十五日　宗直　同十七年八月廿一日　龍吉　同十九十一年十二月三十日　沙弥性秀　沙弥宗直　同廿五年十二月四日　宗文　同廿六年十月一日　今精　永享弼應　紫清遠　沽券状　貞和二年九月十二日　沙弥道壽　明德五年二月六日　長徳　應永六年十月廿三日　安久　將監　宗嘉　同十四年正月十一日　安吉　契約状　貞治二年十三日　宗成　貞和二年正月十日　能親　坪付注文　文和五十日　沙弥覚賢　應安　放券状　親應二年四月廿三日　宗顕　貞治四年六月廿七日　藤原　應安二年三月音宗天　賣券状　應永年十月廿一日　可友　同十七年十三月七日　長明　同十　執達状　永正十三年十二月一日　織九年十月廿日　信德　同廿五年十月十五日　宗策　田彈正忠　同　紀竜守　同郎　與證状　永享十一年十一月廿日　佐弥　応永二年八月廿八日　法眼　長園　同　大永五年十月日　常宗　同廿五年十二月十三日　宗文　書状　應永二年八月廿八日　佐弥　同　大永十年六月二日　常松　同廿五年十二月十三日　宗文使代　室德四年三月廿三日　坂井入道　長祿二年十三月廿四日　長基之清　文明五年六月十二日　敬慶　長享元年十二月廿三日　長秀九左　明德六年十一月十二日　林九郎　文明五年六月十二日　敬慶　同十年正月十三日　与三太夫吉房　同八年十月十九日　寛慶　永正十十二月廿六日　建次　同十四年十二月十三日　南野康久　大永六年八月廿七日　達勝　天文二年十二月廿六日　織田彈正忠信秀　同六年五月廿四日　吉田萬吉等の　略　此外織田氏の古書百どりて　又武田信玄の書簡狩屯七郎　家系久親　遠藤三郎　宗次　田大宮司家の人々　荒尾民部少輔　宗顕　二宮備中守　入道省忠等　歴々の武家方多の　消滅　減少多々　海内の古證文　に尽　ましし　品財の類　牌四枚　坐禅故事所　清蔵寺の八字　點茶點湯　姓名　宋國無準和尚筆


上品
天神

妙興寺靈寶
弘通の略圖
一ノ三十二

牌 張即之筆 普田向浴佛偈二枝 筆 聯 趙子同号筆 額 清の一字文徵明筆 同 上堂の二字同筆

大應國師袈裟 一衣 大照禪師袈裟 一衣 南化國師袈裟 秀吉公寄附 阿古陀鑵子 中島藏人寄附 中央 唐製慶南 繪画古製大照禪師所持 同 秀吉公御膳 三枚疏球製泥金彫 蓼花鏡 湖州孫家作 南京淨瓶一對 大照禪師所持 香合 大小一具大照禪師所持 宝鈴 天竺製 法磬 朝鮮製 鈴 南蠻製 獅子香爐 交趾製 屏風一雙 古法眼筆 同 土佐將監筆 衣桁 秀吉服筆

公御寄附 大應國師塔銘 禅世の古物りて世人これを愛しまうて銘文をたにくりて好古憲次

勅謚圓通大應國師塔銘 駙馬都尉相州巨福山建長興國禅寺勅謚圓通大日本國師東道塔銘有序 杭州路中天竺天竺寺萬壽永祚禪寺住持沙門繹密詣

資慶元路金鰲山真相禪寺住持沙門繹密詣 書

圓悟之道爰而為二一為大慧果一為虎丘隆々三傳而為馬祖源点々宗馬祖傳而為虛堂愚得虛堂之傳而在日東者建長禪寺國師諱紹明平南浦紹明安部縣人出藤氏知事木建蟠寺淨獅師學出世法年十五蘊髮受具戒往依建長蘭溪隆公正九問叡海至東徹無知識虛堂慈公主淨慈門庭高峻學者望崖而却師往禮竭堂曰古例未構時如何師云雖瞋眼裡五須彌臺云林後如何師云黃河向此流至不在更遣師云某甲慈悲和尚又作麼生堂曰黃河向此流師云不會和尚一日使善畫者寫堂奉壽像請贊堂題筆書曰紹既明白拈不失宗手頭鉗業達人唐國裡無人會又拈棄流西海東晴戍斗金改元之夏六月也是年秋八月堂奉 記 遷徐山日悠然心境供佛益策勵一夕放舍時大慧禪師住持沙門繹密詣 書

敕 賜 紫 僧 正 法 諱 大 日 本 國 師 東 道 塔 銘 有 序

敕賜紫僧正法諱大日本國師東道塔銘有序 天竺天竺寺萬壽永祚禪寺住持沙門繹密詣

報恩寺紹興二年 透玻機法王法身全体現時人相對不相知堂巡發 禪師 寺住持沙門繹密詣 書

秋師辭日道漢泰禪天皇贈以偈曰自晨磯門發細揚摩路頭年浮三百年盡處再經過明々堂賜

主臣福山建長興國禪寺明年春太上皇降手詔
行開題禮優至當入寺之夕有曰今年臘月廿
九日衆無所來明年臘月廿九日去無所去衆驚訝
笑諭其意明年當延慶戊申臘月廿九日悉不復疾
至二月二十三日手書偈曰呵呵風罵雨罵七十有四坐六十夏所
電猶過者畢竟眼耳而起世奇七十有四坐六十夏所
度弟子宗實宗意等千有餘人嗣其法而金石居列剎然宗
者興聖寺宗崇福遂南禪寺南禪寺南禪圓萬壽禪建仁
福一萬壽心崇福紹崇福津聖福淵建長什崇福龍
龍翔友等若干人孝奉龍閣維摩設利無算事聞皇
上良慕不已勅諭國通大應國師仍勅建寺西
京頒曰龍翔寺在建長興國禪寺在崇福者奉
曰祥雲弟子在崇福者奉舍利建塔暮曰鴻雲他日人及半夏歇大悠
在西宮火逢盛永可歲舍利塔失所在門日火日大塔日大塔
夜半岩門發光逢迎之場馬逢迎尤異之至聖廿五年
夏四月比丘者吾持其師後築洲安國山聖福禪寺
國師之在天下無問宇海之內外也日東諸國師之場惟法
道之在人宗規微者鈴師之場惟法
致為蓋盛若圓道大應國師之名東海國諸國
來之歸如水赴終應敢忘著靈其殆古
而來聚其化也是宜銘曰
大荒之內東海東
世代綿歷無終窮

抑有者碩居其中宜遊逍遙來家龍
圓通大應國宗工傳燈印開自聲
卓行誼德期淵衆龍錫異數禮益隆
所至擊鼓橫槍罐天人圍繞華雨霧
龍伯曷曷毅毅蹇蹇恣意起凡庸
紀期法化示有終啓悲嘶踴湧無挽
火鈴設利光燈々窓堵馬嘶海上拳
宰堵馬嘶山君川石謹貫長虹
虛堂之道光禪叢封
南山栽々石可攻勳勞厥勳
百世過者宜爾卷

法孫比立

年月日

銘言一覽小稱の德標刹本漢文の跋ノ刊る大應國師の塔銘本州中國部の寺寺と在者
盛元人の刻ます所ようよりの所説を内其後走て碑銘と元朝の賢者小紅元子八海小
説ニシテ是と得し功ます余微ス同し相て門の塔と拜一則公學識ニ一四法の
説ニシテ是と得し功ます余微ス同し相て門の塔と拜一則公學識ニ一四法の
ふ則ち小の人の大邦と紙ます所ようよりの所説を内其後走て碑銘と元朝の賢者小紅元子八海小
命ぜ之宮殿已本尾後奏島濱ようよりの又為ち五年盛宗ふ尚ち著ち所の大應録ちし伝後之
出ちしようにいふ美ようよりて記す

塔頭西住院

梅華先不蘇ふ居之妙無ふ
西住軒しりのようよりて

大陽菴

行ふ名古屋小ふ居ふ
國君比良ふ以て大陽菴
ふ居ふ名古屋小ふ居ふ
ふ居ふ名古屋小ふ居ふ
ふ居ふ名古屋小ふ居ふ

耕雲庵

種玉菴

桂昌菴

端芳菴

妙典寺記天祥菩提鈔ゑと書ー
べうり文明元廿年家す

清寥菴寺ゆ

妙典寺　周田新川
[illegible]　寶殿額　靈光社　鷲偏鷲甲四方　樹結花鬘連福
土風傳鳥鵲出空廊所朝暮鐘無雙字開士道眼一
姓香樓勝象講禪殿地開拔貝葉坐廻林

小栗海道　妙典寺の南にあり今廢して四ー
ゑ　ゆ小栗後ゑ　ゆ　ゆ　ゆ

日本武尊
劍研石

蓑村をて古代の蓑と猛心ゆう孔を中に曲玉神宝石ろう
比呂ゆ上古十柄の神剣と研一所と陸所宮ゆ村のはたろの話ようう

川曲神社 子ゆ村ゆ村 延喜神名式ゆ川曲神社と凡し 本國神名帳ゆ従三位
河曲天神とゆるゆ里俗十三 権現と称もゆう良治の國帳の神階従
三位とわるど十三し心得たゆるゆ 本社 熊野社 御厨社
例祭八月廿一日

大神社 赤堀村ゆうて 大王社と称す 延喜神名式ゆ中島郡大神社と凡し同臨時祭式ゆ
多神社とゆるゆ 本國帳ゆ従一位多名神とわる官社ゆり祭神ハ斷撰
姓氏録ゆつゆる多朝臣祖神神八井耳命ゆるゆ 是 神武天皇第二
の皇子ゆうゆ 今相殿ゆ八王子ゆ祭ゆるゆ 起ゆ 本社大明神社 神明社 例祭八月廿日 相殿官 山田氏
文德實録曰嘉祥三年九月神社 瑞之由大赦 以遣使也 少祐正六位上吉部豊基向尾張大神社告以賀
國書曰仁壽三年六月庚午以尾張國多天神預於名神
國書曰仁壽三年七月辛丑加尾張國多名神授五位上
三代實録曰元慶元年閏二月廿六日 戊戌授尾張國正五位下 多名神正五位
上

拜師蒼郷 林せ村とゆう 和名抄ゆ
中島郡拜師と凡し

陸田御厨 陸田村とゆうむ 大神宮の神領ゆ 神風抄ゆ尾張國陸田御厨とゆる
田地ゆうゆ 隣村次郎丸村ゆ国弁所ゆて 国物に尾張國四郎丸と凡しゆう

赤池里 赤池村とゆう 康正二年 造内裏段銭並國役引付に三浦平四郎殿尾張國中島郡
御厨半ゆ 赤池段銭 天文十八年 赤池村ゆ支保三年沙弥明空ゆ寄の郡曲
毛川領と 別紙追加曲 [illegible] 海道ゆ [illegible] 国分寺 [illegible]
[illegible] 水の [illegible] 寄合の秋 [illegible] 国分のうりに [illegible]
[illegible] 月 [illegible] 秋 [illegible] 年 [illegible] 月 [illegible] 海 [illegible] 国 [illegible]
[illegible] 寄

大神社
川曲神社

かけまくも
かしこき
冬のうやとしら
ひまるふ郷と
いつくもろ人

藤島神社神主
神谷永平誌

かくてのうらふる神
神代所生命神武天皇御
ご統御天皇の御代ふるい
天八十七年冬柳ふるい郷人
古事記に天皇の神勅をうけ
うらくに神代をうつ
ことに九年の冬柳と長柳と
春柳かわりてうるはしく人のう
ちにもうるはしきをえらみ
ひとりこの郷人をうつ
ゆえにうつしの郷人をうつ
ゆえにうつしの郷人をうつ
ゆえにうつしの郷人をうつ

本宮ふるい

清水春風
路傍首尾
脱風軍古
學有名不
耐吹雨代
書英皆晒
故聞人停
立淚闌干
本堂
鐘楼
塔
庫裏
表門
表門
表門

流の水災に遭ひて堂宇衰廢せりと弘法大師再興して真言の道場と作る後又天暦の火災永祚の風難等に伽藍破滅に及びと建長六甲寅年　亀山帝の勅願と蒙て常圓上人與隆と上人と俗姓梶原武長母寺の無住一國國師の兄弟少て其頃尾張の三國と称せり是一人なり　三四のうち一の宿地　○本尊　同内の阿弥陀　弘法大師　厳寺の本尊なり　一の宿地　宝塔　智天金剛の作の大日如来の像と妻子を八寸の銅鏡宮　慈和元年　常圓上人の父入り授り　天佛なり　鏡宮　慈海　因府の祈願に因て　法門白銅鏡と陳　天照大神の御　其宝殿今の方丈に　宮殿の　樹　法華経　天正九年六月十日　弥井中老僧　文禄四年十二月　寺領　寺宝　弘

法大師画像一幅　真如親王御筆　同一幅　観賢阿闍梨筆　同一幅　弘法大師筆　愛染明王画像

一幅　同筆　十六羅漢画像二幅　古画　三千佛一幅　古画　十三佛画像一幅　同筆　不動明王画像一幅　同筆　八大童子画像一

幅　同筆　一巻　普賢菩薩　同一巻　弘法大師筆　覚禅抄百巻　仁和寺覚禅法師の著作　法華経

海上人の真筆なる書跡凡そ後真に海内無比の法書なり其外古宮の佛書数百巻あり　真如親王の筆　一百あり　鎌倉時代の書にて　文長七年に　一巻　普賢菩薩　同一巻　覚禅抄百巻　仁和寺覚禅法師の著作　法華経

て天永保延文治弘安元仁治文永弘安元慶正安乾元延慶嘉暦延文貞治嘉吉文安等の年号あり　又寄進帳古絵巻多　辨財天像一軀　弘法大師の作　其手作の銘あり　文長七年に　終像と作る　塔頭　養源院　寺領　寺宝　弘

下津里　清須驛の西北なる岐阜街道なり村内殊に長く農家相對ひて巷をなす俗常に性素の人徒と遠國の旅人往還なり也

宿駅なり京鎌倉の大軍下津に在陣せり其頃書に　大神宮の神封なり神鳳抄に尾張國下津御厨と見えり　源平盛衰記の中に　十郎義人行家に敗の陣と云られて尾張国に落ち陣をとる　十三日大炊殿平尾張国打下津に陣を取る　十日を以て今の小牧に陣を取る　十三日大炊殿平尾張国打下津に陣を取る　十郎義人行家に敗の陣と云られて尾張国に落ち陣をとる　十日を以て今の小牧に陣を取る

第三巻

義経　をつの浦にいでぬ　をつの浦にいでぬ　をつの浦にいでぬ　をつの浦にいでぬ　をつの浦にいでぬ

竟長記

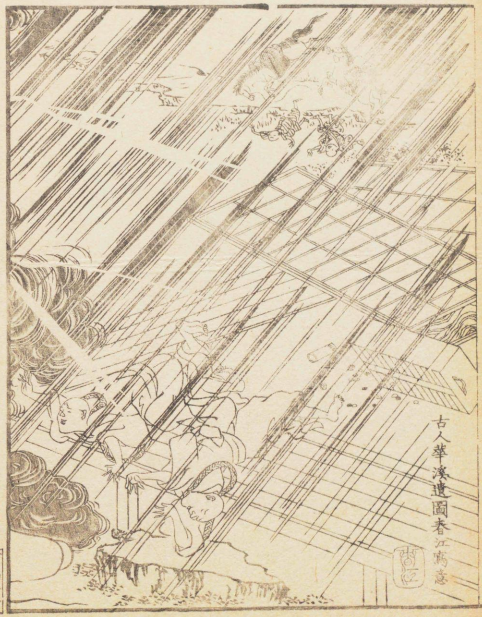
をつのうらをつの浦と引たらん分やをつの名をとらん　光孝法印

はるかにみやこをはなれてあり　小澤蘆庵

をつのあまをつのうらなくなるこゝろかなをつの里の名をとらんに

をつのうらをつの浦とすぎぬ　小澤蘆庵

加藤磯足



古人華淺遺圖春江萬壽

砂石集に云ふ
文永七年七月十七日尾張の国小雷
鳴て雨降馬三疋流れて小家にそこなを入て帷まゐて居うる法師の祭
客賓をまねて双六をうつ
法師もつぎ〳〵にうちけり
次の日事の繰りてその
道理をたしかめすぎりき
えしとぞ
の有るものにはかゝる事ハ世の常にあれども
此国小雷地を動きるる沙る事の文意に
よりてこれ一説をなして一帙と成すべき
事かゝれ

六角堂長光寺

尾張名所記に云ふ堂の武四
郎造る門本尊は地蔵ハ
鎌に乗ておりし夫和国志四
ちの地蔵を移しとゆ〳〵
六角龍化と彫て堂とお角ゑ
造立なり

織田兵庫助故廣城址

[illegible]故廣或衛孫の軍略と或衛永徳の今川部落記に
曰義敏と家督の爭論より軍起り尾張の軍勢とを部に分て軍せんとすれ共故廣
是に口の陣と構て油断せしに敵中の強人〻蜂起して内陣の敵と戦ひ[illegible]
[illegible]

加藤遠江守光泰舊宅

同村にあり光泰[illegible]作田しゝ[illegible]秀吉に仕へ[illegible]
[illegible]

小池山正明寺

小池山[illegible]

四ツ屋

[illegible]

浅野長勝屋敷跡

六角堂村の[illegible]

興化山長光寺

同村にあり[illegible]

與一其後元禄四年崑山長光再建次○六角堂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二王門 東の表門にあり

十王堂 春日社 卧松水 [illegible]

古鰐口 [illegible]

草部御厨 日下部村と入神風物に尾張国草部御厨とあり

長東大蔵正家宅址 長東村にあり豊臣秀吉公の住(或功城)[illegible]

飯尾氏城趾 [illegible]

奥田山安樂寺 同村にあり真言宗 長野村石徳寺末 當山ハ十八坊の大地なりしが中世悉く荒廃ありて行基菩薩の開基にて永仁年中勝圓上人再興す所ありて洛凡ハ丙戌宝永三年中島郡矢田村安樂寺阿弥陀二菩薩と再興ス彼佛像の胴内ハ正和元年十月十日の字ありて像ハ行基作しなり花園院御宇再興の時書しと見ゆる三百九十五年の後又座光と新に作る其間数文の差表ありなんと考ふる昔あやまりと見えて此世ハすべて古制なるとも今ハ只一院のみなり田畑の字ハむしろと云の人等多し ○本尊 阿弥陀如来 [illegible] 寺宝 不動明王 鳥羽僧正筆 三千佛 [illegible] 西界曼陀羅 大師作 涅槃像 永禄八年寄進 十六善神 天正十六年寄進 其外佛画等多しなり

千町田面 同村の西のはし起術道のあたりより凡四方数里目の及人限り山あり里あり [illegible] 水田あり俗の表四の十町田面と云人村のあたりの [illegible] 竜蛇田畝 [illegible] 其孫と [illegible] 里氏基[illegible]

[illegible]

おつまちやをくりの玉は山をミ四ゝ[illegible]ろ殘し千町ハる町　本居宣長

大ゝにつゝまゝむハ為種小杜四のわゝハ栄えゝ[illegible]も　田中道麿

[illegible]　士朗

尾堂廢跡

[illegible]

尾張名所圖會後編巻之一終

302886
A294
A291
オ
1A-2-1

愛知県
1103263940
294
オ
1A-2-1